

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700149		
法人名	特定非営利活動法人 みどり心育会		
事業所名	グループホームありがとうの家小新保		
所在地	新潟県五泉市村松1289番地1		
自己評価作成日	令和4年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年12月8日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角にあり、緑豊かな広々とした庭園と、明るく開放感のある建物が自慢です。ホールから眺める景色は四季の移り変わりを感じられ、地域のシンボルである白山を一望できる、自然環境が整った施設です。毎年畑に野菜を植えて、利用者様と一緒に収穫し、採れたて、旬の野菜を調理し、食べるという喜びを感じていただいています。周辺にはスーパー、薬局、お菓子屋さん、ディスカウントショップなどがあり、利用者様と一緒に散歩のついでに買い物することができる楽しみもあります。法人主催の地域交流行事はコロナ禍で、大勢集まる行事は中止になってしまいましたが、コロナ禍でも皆様に楽しんでいただけるよう職員みんなで考え、計画しています。少人数のドライブ、小新保庭園でのランチ、チューリップ、ポタン、パン、あじさいの見学など外に出て気分転換できるよう心がけています。皆様お花が大好きなので食席には、庭に咲いた花や職員の家から持って来た花を常に飾り、いつもほんわかした空間になっていると思います。毎日の食事やおやつが楽しみなので、旬の野菜や果物を取り入れたり、昔からの郷土料理を提供したり、皆様からの献立リクエストに応じて、喜びが増えるよう工夫しています。防災面では年間の防災訓練を計画し、毎月定期的に訓練を行い、いざという時落ち着いてできるよう繰り返し行っています。今年度はコロナ禍でできなかった外部研修にも参加し、復命報告することで職員全員で良い所を共有し、内部研修も繰り返し行うことで理解を深めるようにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である親会社はかつて地域の代表的な産業である繊維工業を営んでおり、多くの社員が雇用されていた。社員への福利厚生と地域への社会福祉貢献を目的として平成15年にNPO法人を立ち上げグループホームとデイサービスセンターを開設した。平成18年以降には社会福祉法人として保育園、小規模多機能ホーム、特別養護老人ホームなども開設し現在に至っている。

事業所は幹線道路沿いに所在し徒歩圏内にホームセンター、コンビニエンスストア、内科医院などもあり生活の利便性に大変優れている。建物も近隣の住宅地に溶け込み違和感はなく感じられない。

事業所の敷地は大変広く日本庭園風に整備されている。また利用者がくつろぐリビングからは遠くの間山が臨め、四季折々の季節感を感じることが出来る。

1ユニット9名の利用者に対し広々とした建物内の所々にソファや椅子が設置されており、ゆったりと思いの場所で過ごすことが出来る。コロナ禍で様々な制約がある中でも利用者の不利益にならないように試行錯誤し行事や外出を継続している。また、開設当初から地域に伝わる習慣や行事、郷土料理などを利用者の生活の一部として積極的に取り入れ皆で楽しんでいる。経験豊富な職員が多く、日々利用者を主役とした生活支援が行われている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や運営方針は年度始めの会議で確認、共有し、理念に基づいた支援に努めている。理念は事務所に掲示し、常に意識するようにしている。	「受容・尊敬・共生」を運営理念とし事業所開設時から礎としてきた。毎年度始めに運営理念の確認を行うとともに運営目標を考え、より具体的な行動指針としている。毎月行われる職員会議の中でも理念を読み込み、振り返りと意識付けを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は法人主催の交流行事が計画されていたが、感染症予防のため中止となっている。しかし庭や近隣の散歩の際に挨拶をしたり、近所に買い物に行ったりして交流を図っている。	事業所の周りの民家の方々とはいつでも気軽に挨拶を交わしている。地元の高校の福祉教育に関する研修の受け入れや系列グループの保育園児の定期的な訪問も、感染対策を行いながら継続している。大正琴のボランティアは、屋外から演奏を披露してもらうことで受け入れを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の活動内容、取り組みについては広報誌で地域に発信している。近くの村松高校1、2年生を対象に認知症の方の理解や支援の方法を教える講演会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現況報告、取り組み状況、ヒヤリハット、事故報告の検証など報告し、意見をいただいている。	感染状況を見ながら対面での会議実施も行っている。家族代表、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、法人の理事長、事務長などが参加し有意義な意見交換が行われている。コロナ禍以前は事業所のリビングで会議を行うことで利用者にも参加してもらっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの担当者には運営推進会議で意見をいただいたり、新規利用者のことや、わからないことなど相談をしている。	市の福祉課職員には運営推進会議に参加してもらっているほか、メールや電話、必要に応じて来庁しての相談、報告を行っている。市が主導する事業所連絡協議会を年に4～5回実施していたが、現在はコロナ禍により中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回身体拘束委員会の研修を開き、身体拘束をしないケアの実践に努めている。夜間以外玄関の施錠はしていない。	『身体拘束・虐待防止委員会』が企画し定期的な研修会が行われている。言葉の使い方、身体拘束につながる10の項目についての話し合いなど具体的な内容についての学びを深め、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修を行い、チェックリストにより自己点検を行っている。事業所内で虐待が起こらないよう、職員同士が注意を払っている。	『身体拘束・虐待防止委員会』が企画し定期的な研修会が行われている。年に1回チェックリストを利用し自らのケアの振り返りも行っている。管理者は職員の満足度に関する研修会を受講し、職員個々のストレスや満足度に配慮できるような職場環境づくりを進めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について外部研修に参加した職員の資料により学ぶ機会あったが、実際に制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定、退去の際には十分説明し、質問に対しても回答し、理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはこちらから要望があるか聞いたり、普段の会話から思っていることを引き出すよう努めている。家族には面会時や電話、毎月の近況報告で日々の様子や連絡事項を伝えている。	現在も窓越しではあるが家族の面会を実施しており、面会時に直接聴き取りが出来る。毎月送付している利用者の様子を記載した手紙に家族記入欄を設けており、意見や要望を記入し送り返してくれる家族もいる。ほとんどの利用者は自分の意見をはっきりと伝えてくれるため、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には理事長、事務長が毎月出席し、管理者との面談も今年から年に3回やるようにしている。日頃から意見を言いやすい環境を作るよう努めている。	法人の理事長、事務長が毎月の職員会議に参加しており、職員からの意見や要望が直接伝わっている。職員の自己評価表をもとに年に3回、管理者が個別面談を実施しており、意見を聞く機会としている。最近では職員の制服としてカーディガンの購入の要望があり、実現されたことがあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの聞き取りや個人面談で、職員個々の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は内部研修や外部研修を受ける機会を設け、参加を促し、職員がスキルアップできるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は職員が市内の医師、同業者の講演会に参加、勉強会ができるよう努め、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族から生活歴や不安、要望などを聞き、本人が安心して過ごせるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、安心して家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、情報収集を行い、必要な支援を見極め、安心してサービスを利用できるような対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは積極的にやっていただき、苦手、困難なことは一緒に行うようにしている。職員が教わることも多い。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策をしっかりして、面会や受診のお願いをし、その都度、現在の状況を話し合ったり、電話で連絡をとったりして家族の協力を得ている。	利用者と家族との絆や関わりが途切れないように、受診の付き添いは基本家族にお願いしている。毎月送付する利用者の状況を記載した手紙には、家族からの意見や要望の記入欄を設けている。利用者が家族と話が出来るように、家族への電話を職員が仲介することもある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話で連絡を取ったり、手紙のやりとりをしている方もおられる。馴染みの美容院に行っている方もいて、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	最近でも家族や親戚だけでなく、以前職場が一緒だった知人などが面会に訪れることがあり、確認のうえ窓越し面会を実施している。馴染みの美容院へ家族の協力のもと通っている方、手紙のやり取りを続けている方もおり、また、ドライブに出かけた際に馴染みの場所近くをコースに加えるなど、関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性を理解しながら座る席を考えたり、その時々合った対応で、利用者同士が良好な関係で支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、住み替え先や家族に電話することがあり、現在の様子をお聞きし、相談や支援に努めようとしたが、問題なく楽しく過ごしているということだった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中からご本人の希望、意向を聞き取るようにしている。困難な場合は表情、声のトーンなどを観察し、ご本人の思いを汲み取るようにしている。	入居前に家族から「センター方式」のアセスメントシートを記入してもらい思いや意向を把握できるようにしている。利用者本人は自分の意見や要望をはっきりと言葉にできる方がほとんどであり、信頼関係を深めながら直接聴き取りが出来るように進めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族に記入していただいた情報シートや聞き取りをもとに、これまでの経過などの把握に努めている。また利用者から聞いてわかったことはケースやシートに記録し、情報の共有に努めている。	可能な限り入居前の自宅訪問を実施している。難しい場合は、利用しているサービス事業所や担当の居宅ケアマネージャーおよび家族、本人から聴き取りを行っている。新たに知り得た情報については赤字で追記し情報を積み重ねこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティング、連絡簿、生活記録、バイタル測定、排便記録、または利用者の表情、動作の観察により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議や朝のミーティングなどでご本人の現状や課題について意見交換をしたり、面会や電話で家族と話し合っている。	日々の関わりのほか、毎月のモニタリングにより利用者の状態把握に努め、変化があった時はその都度ケアプランの変更を行っている。サービス担当者会議には家族の参加を促し、利用者の意見や要望がタイムリーに反映されるよう考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録や連絡簿に記入し、職員間でも口答でさらに伝え、話し合い、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出などご家族の対応が難しい場合は職員が対応している。入浴日や行事などは職員の人数を増やすようなシフトにし、職員が急に足りなくなる時は他事業所から応援をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院に行ったり、入居前からの主治医に引き続き診てもらっている方が多い。地域のボランティアの方が大正琴を披露して下さった。(感染症予防のため外で。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望により、入居前からのかかりつけ医を利用している方が多い。家族の方から当施設の協力医院に変更してほしいとの希望があれば適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医への受診を基本とし、受診対応は家族をお願いしている。どうしても難しい場合は協力医院の往診に切り替えている。医療機関へ特別な状態報告が必要な場合は職員も同行したり、書面による情報を持参してもらったりと柔軟な対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はないが、同じ法人内の看護師に相談したり、心配なことがある時はこまめに主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、感染症対策のため面会はできなかったが、病院関係者や家族から電話で情報交換や相談に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合などについて説明し、理解していただいている。重度化が予測される場合は、早い段階でご家族や主治医と話し合い、特養を含めた住み替えについて勧めている。	看取りは行わない方針で入居契約時に書面を用いて説明している。利用者の状態低下がみられた場合は早めに家族、関係者による話し合いを行ない、情報共有を行っている。住み替えについての情報提供や支援を行い、スムーズにサービス移行できるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備し、周知している。内部研修や外部研修で普通救命講習、AEDの講習を定期的に行っている。	AEDの取り扱いおよび心肺蘇生法の研修については毎年、消防署に出向き定期的受講できるように計画している。あらゆる事象についてのマニュアルが整備されており、有事の対応についても随時確認している。緊急時は初期対応と同時に救急車の要請、管理者への連絡を周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した防災訓練を定期的に行っている。消防署にも年に2回立ち合ってもらっている。以前は近隣住民にも参加してもらっていたが、コロナウイルスの影響で近年は近隣住民は参加していない。	毎月1回は防災に関する訓練や確認を行っている。消防署の検証のもとでの避難訓練も年に2回実施している。近隣との協力体制も築いており、火災や地震への対策が確立している。備蓄品等の備えも行っている。	昨今の自然災害の発生状況を鑑みると火災や地震のほかにも、風水害、雪害などあらゆる災害への備えは必須である。ハザードマップにより地域の水害の状況を確認しているが今後は、水害が起きることを想定した避難方法や避難経路、避難場所の確認を行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念のもと、敬う気持ちを忘れずに、プライバシーに配慮した言葉かけをしている。申し送り時もわからないように個人名は言わず、番地で申し送りをしている。	利用者についての申し送りでは個人が特定されないように居室につけられた番地名で呼んでいる。個人情報保護、プライバシー、接遇などの研修を計画的に実施し学びを深めている。運営理念を意識した中で、傾聴、優しくさり気ない言葉掛け、正しい言葉遣いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。日常生活の中での会話や表情から思いをくみ取り、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく必ず利用者優先であるべきことを日頃から念頭に置いている。希望に添えない場合がある時は説明して理解を得られるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや季節感を大切にしながら服選びを一緒に行っている。毎日お化粧する方がいるので、好みの化粧品を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からのリクエストを献立に取り入れたり、旬の物、伝統料理や行事食を提供し、おやつも好きな物を取り入れるようにしている。食事の下準備や皿洗い、テーブル拭きなど一緒にやっていただいている。	献立は法人内のグループホームが数か月ごとの持ち回りで立案している。献立にとらわれず利用者からの要望や食材を見ながら随時内容を変更している。地域の郷土食や伝統料理、行事食を積極的に取り入れ、職員が由来を説明する時間も楽しい食事の一部となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や状態に合わせて食事を提供し、摂取量のチェックを行い共有している。水分は決まった時間以外にも摂っていただくようにし、水分が少ない方は1日の水分量を記録し、十分な水分が摂れるよう工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守りや介助で一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアをしている。毎日義歯洗浄を行い、臭いが気になる方は舌ブラシや歯間ブラシも使い、仕上げ磨きをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便表を活用し、その方の排泄パターンを把握することで声かけ、誘導で、できるだけ失敗せずにトイレで排泄できる支援を行っている。パッドもなるべく使用を減らす方向で職員で話し合っている。	排泄の自立した方が多く状態を維持していけるよう努めている。排便困難な方がいるため、排便のチェックは行なっている。可能な限りトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、水分摂取量や食事内容など工夫して便秘にならないよう心がけている。必要に応じ、主治医と相談して下剤を調整する支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、皮膚状態や希望により柔軟に対応している。時間帯や順番の希望をお聞きし、個々に沿った支援をしている。	一人に対し週に2回以上の入浴を提供している。1度に2～3名が入れるぐらいの広い浴槽でゆったりと入浴してもらっている。できる限り利用者の希望を取り入れ入浴時間や湯温の設定を行い、快適に入浴してもらえるよう努めている。季節の変わり湯も取り入れ楽しい入浴となるよう考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に応じて休息できるよう工夫している。温度、湿度、照明など環境を整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の処方箋を個人ケースに綴じ込み、目的、用法、用量、副作用について周知できるようにしている。また変化があった場合はケース記録や連絡簿で情報を共有している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、行事の参加、制作活動、散歩、ドライブなど個々の楽しみなことを把握し、洗濯物たたみや掃除など、できることをやっていただき、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため例年より外出の機会は減っているが、散歩や買い物、ドライブなどで気分転換を図っていただき、なるべく戸外に出かけられるよう支援している。	コロナ禍ではあるが感染対策を徹底しながら積極的に外出を行なっている。季節の花見やドライブ、作品展の観覧、敷地の日本庭園での食事会のほか、天気良ければいつでも事業所周りの散歩を行なっている。徒歩で行ける範囲に様々なお店もあり、歩いて買い物に出かけることも日常である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持されている方もおられます。買い物の際、施設で預かっている財布やご本人の財布から一緒に支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話を希望される方には、取り次いで、お話していただいている。ご自分で携帯電話を持っている方や手紙のやり取りをしている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく清潔な空間を保つよう、こまめに清掃を行い、室内温度、湿度、換気などに注意している。季節の花を飾ったり、季節ごとの壁面飾りを皆さんと一緒に作成し、工夫している。	広いリビングにはソファや椅子が所々に設置され、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごすことが出来ている。花が好きな利用者が多いため、テーブルには季節の花や球根の水耕栽培を飾り、成長を楽しんでいる。整理整頓が行き届き清掃もしっかりとされており、清潔感がある。装飾や掲示物も吟味して飾り、スッキリとした居心地の良さを感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食席の他、テレビ、ソファがあり、そこで会話をしたり、陽が当たりウトウトしている方もおられる。通路に椅子を置くことで、1人でくつろいだり、会話されている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、写真や思いでの物を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室はとて広くベッドを置いても十分にゆったりと過ごせるスペースがある。利用者個々に馴染みの家具や小物を持ち込んだり、家族の写真を置くなど、その人らしい居室となっている。利用者同士が互いの部屋で過ごす場面もみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは安全に移動できるよう、テーブルや椅子を配置している。各居室には希望によりネームプレートを設置、トイレはイラスト表示でわかりやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				